



アセスメント 0 理解のコミュニケーションモードアセスメント

日付:

対象者:

記入者:

モード	アイテム	反応	アイテム提示の方法	対象者の反応や様子
具体物	あめ			
	くるま			
	スプーン			
	ふうせん			
写真	あめ			
	くるま			
	スプーン			
	ふうせん			
イラスト	あめ			
	くるま			
	スプーン			
	ふうせん			
文字	あめ			
	くるま			
	スプーン			
	ふうせん			
文章	あめを2つください			
	くるまをはしらせる			
	スプーンを1つください			
	ふうせんをふくらませる			

※反応の記号: +: 正しく反応 F: 誤反応 -: 無反応

※アイテムの提示方法: 支援者がアイテムを同時に幾つ提示したかや指示の内容など

※対象者の反応や様子: アイテムを渡す、指す、取るなど対象者の反応の仕方

	当てはまるモードに○をつける
全部+だったモード	具体物、写真、イラスト、文字、文章
全部でないが半分以上+だったモード	具体物、写真、イラスト、文字、文章

※視覚的支援で用いる主なモードは、全部+だったもの



アセスメント 1 環境設定を考える上での自閉スペクトラム症の特性

日付:

対象者:

事業所:

記入者:

	項目	評価	具体的な設定や対応
注意散漫さ不快な刺激の除去	周りにある物や刺激に注意が奪われ、接近したり触ったりする		
	周囲の人の声、動き、視線などが気になり、動きが低下する		
	人と関わるのが苦手、あるいは不適切な関わりが多い		
	見えるもの、音、触れるもの、臭いなどに注意が奪われる		
	広い空間だと動き回る、走り回る		
	注意や興味が短時間で移り変わっていく		
	衝動的に見えるものにすぐ反応する		
	物や刺激が多いと混乱する		
	部屋は比較的シンプルで物が無い状態を好む		
	狭く、閉じた空間だと落ち着いている		
注意の範囲が狭く、合図に注目し難い			
活動場所と境界の明確化	活動場所がいつもと違うと混乱したり、不穏になったりする		
	物の位置がいつもと変わると元に戻そうとする、不機嫌になる		
	情報や刺激を整理したり、まとめたりするのが苦手		
	車や椅子などで座る位置にこだわる		
	ある特定の場所で特定の活動をする傾向がある		
	自分と他の人がやっていることが違うと混乱する		
	境界線やマット、輪などが場所の境界として機能する		
	こだわっているものから別の活動に切り替えが難しい		
	どこで何をすればいいかわからず部屋を動き回る		
	初めての場所だとあちこち見て回って確認行動が多い		
ルーチン化	作業や活動の手順を憶えて実行するのが苦手		
	行動の流れがなかなか定着しない		
	活動の流れが一定方向だと習慣化しやすい		
	いつも同じように繰り返す儀式的行動がある		
	物を順番に並べるとその通りに実行しやすい		
	順番通りに物事を進めることを好む		
	数字の並びや物の配列にこだわる		
活動の流れが習慣化すると次にやるのがわかりやすい			

評価の記号: ○-良く当てはまる △-半分くらい当てはまる ×-当てはまらない